

### 1 玄関

- 玄関ドアには、自動的に閉じるように、また、風圧で急にドアが閉まらないように、ドアクローザーという器具をつけたものがあります。指をはさまないように気をつけましょう。
- ドアを開けたままにしておきますと、ドアクローザーの故障の原因になりますので、ドアの下にストッパーなどをはさまないようにしてください。
- ドアのカギは、入居時に3本渡します。退去時にすべて返却していただきますので、紛失しないように気をつけましょう。
- 玄関・土間は防水していませんので、水は流さないで濡れ雑巾で汚れを拭く程度にしましょう。



### 2 ベランダ

- ベランダ付近では、事故防止のため落下の恐れのあるところに、植木鉢等を置かないようにしましょう。
- ベランダに箱などを置きますと、子供が踏み台にして転落事故のもとになります。くれぐれも注意しましょう。
- ベランダの床は完全防水ではありません。水を多量に流さないよう、また排水口は時々掃除しましょう。
- ベランダのお隣との境にある間仕切板は、火災発生などの緊急の場合に、打ち破って隣へ避難する避難口の役目を果たします。避難のさまたげになりますので、付近に物を置かないようにしましょう。
- 垂直避難口は、火災等の際の階下への避難口です。ハッチの上や降りる場所付近には、物を置かないようにしましょう。
- 洗濯物やふとんを手すりに直接かけたり、突き出して干すことは、団地の美観をそこなうばかりでなく、階下の方にも迷惑が及んだり落下する危険性もありますので、お互い気をつけましょう。

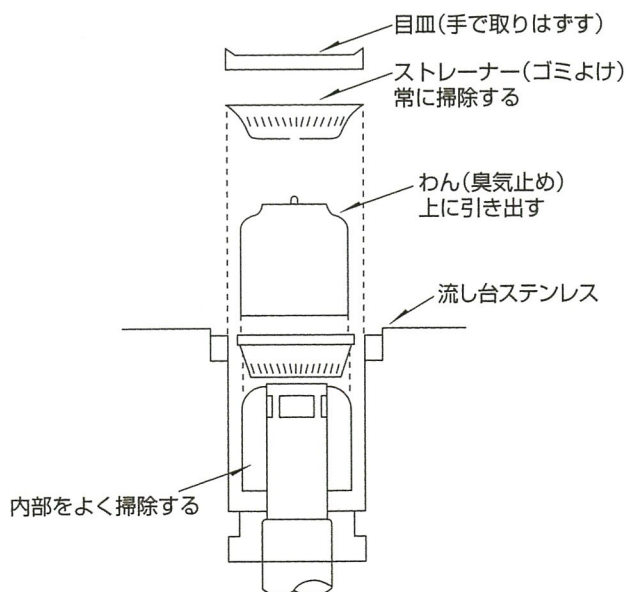
## 3 キッチン

### ■流し台

流し台は清潔で耐久性のあるステンレス流し台です。掃除の時には金属製のたわしや、みがき砂などは傷がつきやすいので、使用しないようにしましょう。

#### ●ご注意

- ① 流しの目皿のゴミは毎日取り除きましょう。  
目皿やわんなどを取りはずして使用すると、ゴミと一緒に流れ込んで配水管が詰まる原因になります。
- ② トラップは、共用の配水管からの悪臭が上がってくるのを防ぐために設けてあります。  
なお、ツマリの原因になりますので使用済みの油類は流しに捨てないようにしましょう。



〔トラップ概略図〕

- ③ 配水管は、長い間使用することによりゴミなどが付着し、つまるもとになりますので、洗浄液等で定期的に清掃しましょう。
- ④ 流し台の排水パイプにはビニール管を使用しているものがありますので、熱湯を直接流さないようにしましょう。
- ⑤ 生ゴミ粉碎機はツマリのもとになるので、絶対に設置しないでください。

### ■キッチンの換気

キッチンは熱気や煙がこもりやすいものです。換気のため換気扇、レンジフードなどを設けていますので、火気を使用するときは必ず換気してください。熱気がこもると結露の原因にもなります。

換気扇、レンジフードなどは調理の油などでよごれやすいものです。換気性能を確保するためにも必ず定期的に清掃しましょう。

### ■ガスコンロ

ガスコンロは、入所者の皆さんで各自購入していただくことになっています。器具の接続、使用方法については、安全のため十分注意しましょう。

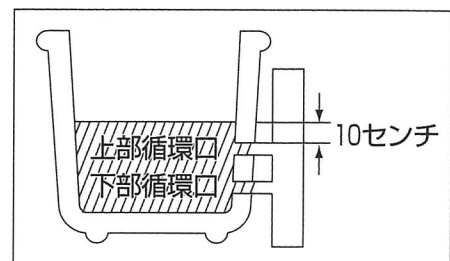


## 4 浴室

- 洗濯機の水を浴室内へ排水する場合は、洗面所などに水をこぼさないようにしましょう。
- 排水目皿及び排水管がつまりますと水があふれ、階下へ漏水しますので、日頃から掃除しましょう。不注意による漏水で階下に被害を与えた場合は、損害賠償の義務が生じます。
- お湯のわかしすぎは不経済です。わかしすぎないように注意しましょう。また、わいた湯は上が熱く下は水のまものがああります。よくかきまぜて湯かげんをみてください。わかしすぎたお湯に子供が転落することがないように、フタは必ずしめてわかしましょう。
- 三点給湯式の住宅は、使用説明書をよく読んでご利用ください。
- 浴室には必ず換気のための窓か換気扇があります。浴室は湿気の発生場所ですから、換気が不十分な場合、壁や天井についた水滴からカビが発生したり浴室戸が腐食したりします。使用時、不使用時にかかわらず常に十分な換気に気をつけましょう。



- 風呂釜の空だきには十分注意しましょう。空だきをしますと釜の上部が過熱し、循環口のゴムが老化して水漏れするばかりでなく、風呂釜の故障の原因ともなり、思わぬ出費となりますので、特に注意しましょう。お風呂をわかす時は、図のように上部循環口から10センチ以上に水を張ってからわかしましょう。



## 5 トイレ

水洗トイレは、水に溶けにくい紙などを使用しますと、汚水管を詰まらせる原因になったり、汚水処理施設の機能障害になりますので、専用紙以外のもの（ティッシュペーパー等）は絶対に流さないようにしてください。

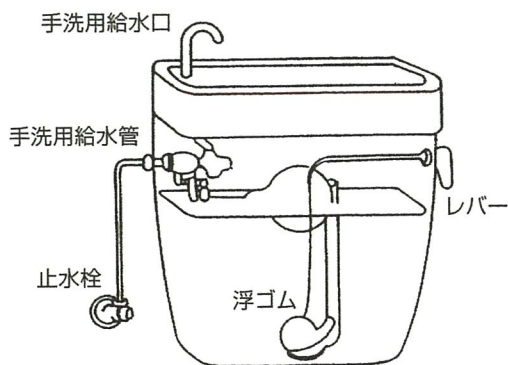


### ■ロータンク式トイレ

タンクに水をためておき、レバーを操作して放水します。

浮きゴムにゴミがつかえると、水が止まらなくなりますので、この場合は止水栓を止めてフタを開け、ゴミなどを除去してください。

なお、水が止まらない時は、レバー位置が正常か確認してください。それでも止まらない場合は、止水栓を閉じて公社等へご連絡ください。



### ■トイレの掃除は

トイレの床は防水ではありませんので、水は流さないようにしましょう。

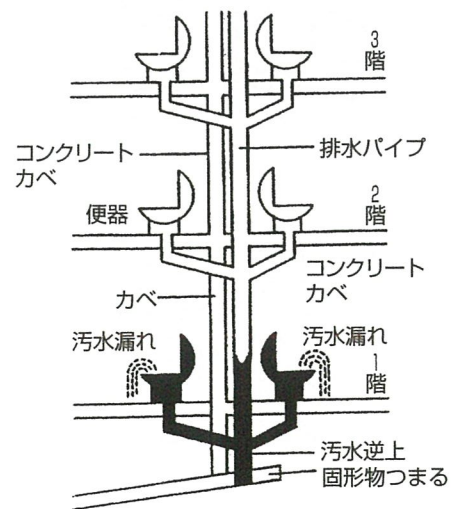
便器、手洗い器の掃除は、中性洗剤を使って洗うようにしましょう。

掃除のために塩酸などの薬品を使うと、汚水処理施設がいたみます。使わないようにしましょう。

#### ●ご注意

トイレに不溶物を流すと排水管が詰まって、汚水があふれ出たり、他の住宅の方にも大変迷惑をかけることにもなりますので、絶対に流さないでください。

また、3年に1度程度は、皆さんの共益費により排水管の清掃を行ってください。

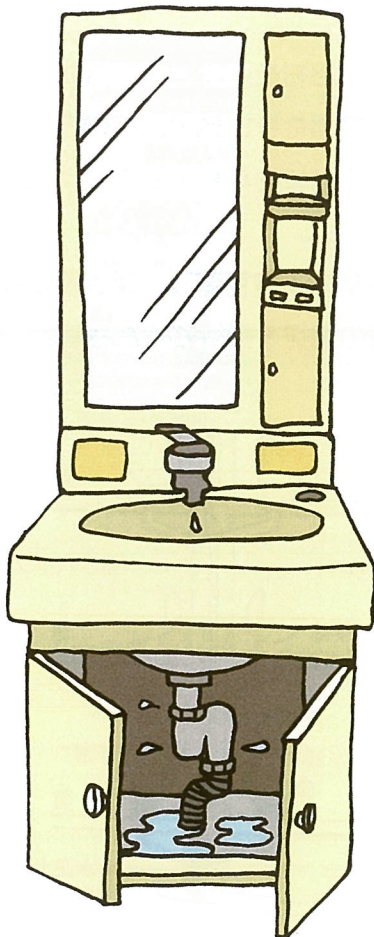


## 6 洗面所回り

### ■洗面器・洗面化粧台

洗面器は陶器製ですので、ガラスビン等を落としたりしないように注意してください。また、熱湯を流したりしないようにしましょう。

年月の経過とともに、管の接続部のゆるみなどから、漏水する場合がありますので、日常、見えない部分についても、ときどき扉を開いて漏水していないか確かめましょう。



### ■洗濯機置場と洗濯機の使用

洗濯機は排水事故や感電事故を起こさないように必ず定められた置場に置きましょう。

洗濯機の排水は、洗濯機用排水トラップにホースをしっかりと差し込んで目皿などに専用の止め具などで固定してから排水しましょう。

なお、掃除は水道水圧を利用してときどき行ってください。洗濯機用防水パンの掃除はスポンジなどやわらかいものを使用しましょう。

なお、洗濯機のアース線は、必ずアースターミナル（接地端子）につないでください。

#### ●防水パンの使用上のご注意

- ① 防水パンは、タバコの火などが直接触れないようにしましょう。
- ② 掃除するときは、タワシなどのキズのつくものは使用しないで、スポンジ、布などに中性洗剤をつけて洗うようにしましょう。
- ③ 防水パンの上に堅い重量物を落とさないようにしましょう。
- ④ 塩酸、溶剤（ベンジン、シンナーなど）を流さないようにしましょう。
- ⑤ 防水パンの排水口の詰まりは漏水の原因となります。定期的に排水口の清掃を心掛けましょう。

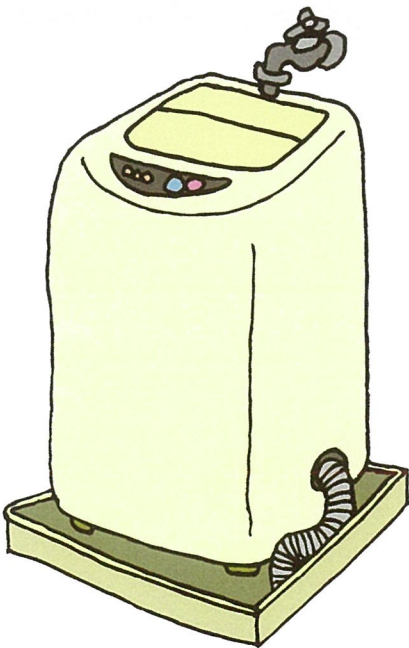
### ●洗濯設備使用上のご注意

- ① 洗濯機をご使用されますと、水撃（ウォーターハンマー）により給湯器などに音鳴り現象などが発生する場合がありますが、特に心配することはありません。
- ② 洗濯乾燥機を設置される場合には、結露防止のため排気をできるだけ外部へ出すようにしましょう。
- ③ 洗濯水栓と洗濯機の接続部からの漏水が最も多いので、洗濯終了後は、必ず水栓を閉めましょう。



### ●洗濯洗剤について

合成洗剤を多量に使用すると発泡により、排水管の排水機能を阻害し、漏水事故を起こす場合がありますので適量を使うように注意しましょう。



### ●床の手入れ

こぼし水の多い所は、洗面所回りと、流し台回りです。洗面所や台所の床には防水してありません。水をこぼしたらすぐふき取ってください。また、板張りの床では、こぼし水で腐食が進みますのでこまめにふきとるとともに、ときどきワックス掛けなどの手入れを心がけましょう。

### ●漏水にご注意

不注意による漏水で階下に被害を与えた場合は、損害賠償の義務が生じます。

多額の費用負担が発生する場合がありますので、家財保険への加入をおすすめします。

## 7 結露について

結露とは、暖かい空気に含まれている水蒸気が冷やされ、気体でいられなくなって窓や壁、天井などの冷たい部分に水滴となってあらわれる現象のことをいいます。

結露をそのままにしておくと、壁や天井にカビが発生したり、家具、畳などが腐りやすくなります。

鉄筋コンクリート造住宅は、気密性に優れ、室内はとても暖かいものです。反面、室内の水蒸気が外に出にくくなっているため、結露が発生しやすいわけです。結露に関して寄せられる苦情や相談の大部分は入所者の皆さんの日頃の住まい方を、工夫すれば解消することが多いものです。

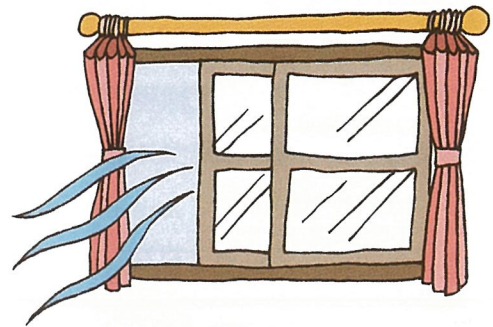
これからの説明をよく読んで、結露を防ぐ住まい方の工夫をされるようお願いします。

### ■結露の発生しやすいところ

#### ①冷えるところ

- (1) 暖房していない独立した北側の部屋
- (2) トイレ
- (3) 玄関

※特に窓及びその周辺や外気に面した壁、空気の流れにくい家具の裏や、部屋の四隅などで水滴となって結露します。

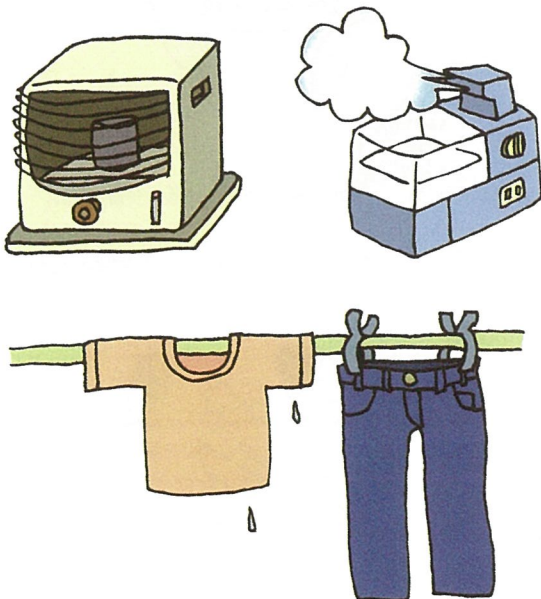


②水蒸気をたくさん発生するところ

- (1) 浴室
- (2) キッチン

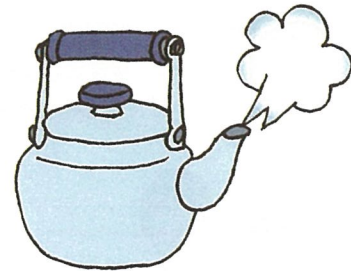
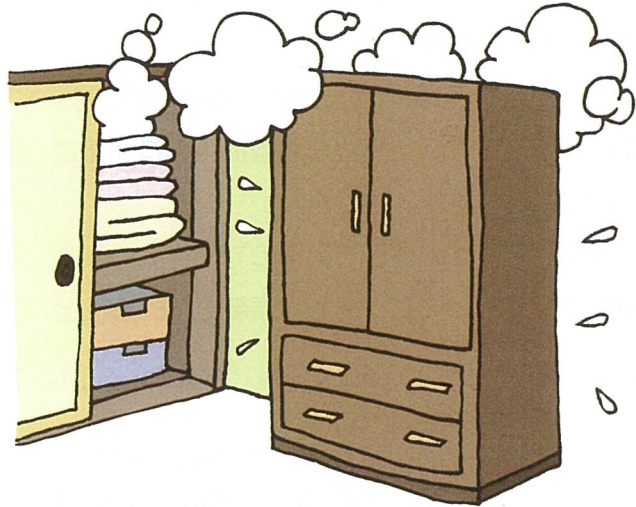
水蒸気をたくさん発生するもの

- (1) ストープ類
- (2) 調理器具、ヤカン等
- (3) 湯沸器（室内に設置し直接排気をしていないもの）
- (4) 洗濯物
- (5) 加湿器
- (6) 盆栽等



③空気の流れにくいところ

- (1) 家具の裏
- (2) 押入
- (3) 部屋の四隅





## ■結露を防ぐ生活のしかた

鉄筋コンクリート造住宅は、木造住宅に比べて気密性が非常に高いため、隙間風がなく暖かいです。同時に部屋の中の水蒸気も外に出にくくなっています。

したがって、結露を防ぐ生活を送るためには、室内の空気と外の空気とを適当に入れ換えることが必要なのです。

また、外気は乾燥しているので、空気の入れ換えを行うことにより室内の湿度を下げるこ

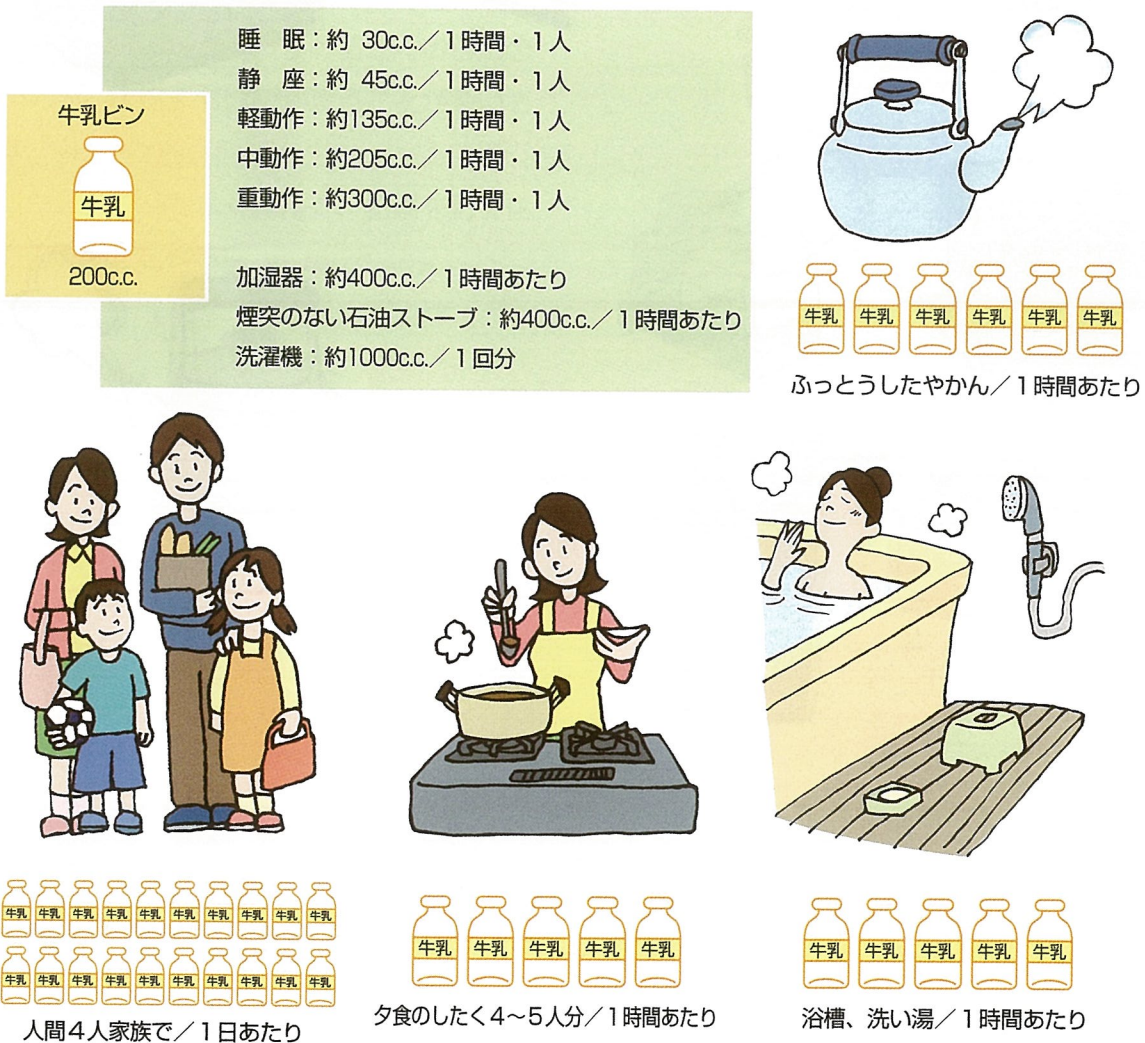
ができます。

閉めきったままの室内の空気は、生活しているとどうしても汚れがちになりますので、1年を通して外の新鮮な空気を入れることは、健康のためにも大切なことです。

### ※空気を入れ換えるには

- (1) 窓を開ける（換気用小窓をあけておく）
- (2) 換気扇をまわす
- (3) サッシの換気用小窓をきちんと開けておく

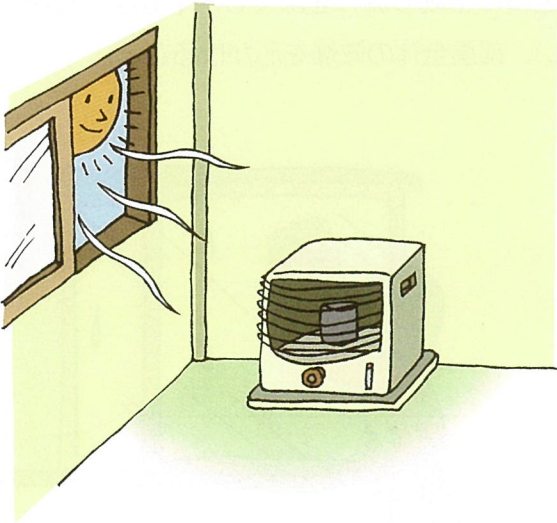
気づかないうちに、こんなに水分が空気中に出ています



### ●室内は開放的に

結露は、各部屋の温度差が大きいほど起きやすいため、日差しの暖かい昼間は、ふすまや扉を開けて室内全体を開放的にして、各部屋の温度のむらをなくし、寒い部屋をつくらないように心がけましょう。

なお、つゆどきや雨天のときには、窓をあけないようにしましょう。



### ●空気の流れを良くして

タンスなどの家具は壁、床から少し離し、ときどき、扇風機で隙間に風を送り込むなどの工夫をし、空気の流れを良くしてください。

押入は昼間は開放して、ふとんもつめすぎないよう気をつけましょう。

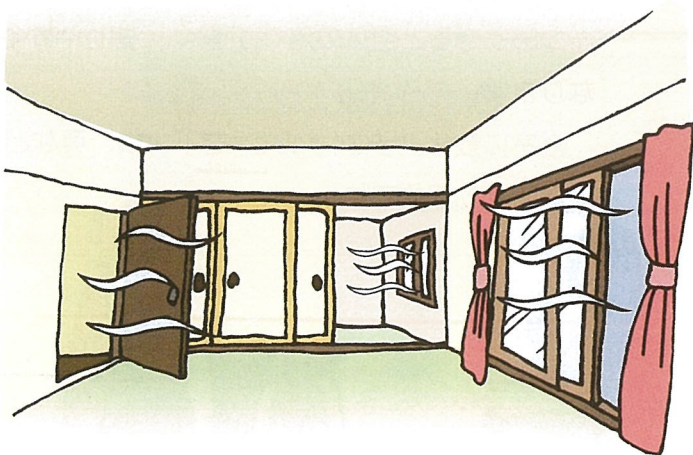
つめすぎると空気の流れが悪く、湿りやすくなります。

浴室に敷くような「すのこ」を下、横、奥などにおくと効果的です。

## ●ご注意

昼間不在がちなお宅は、どうしても部屋の温度が下がります。温度が下がれば、空気の中に含むことのできる水蒸気量も当然減り、誰もいない部屋の中で結露が始まってしまいます。そこで、次のことに気をつけましょう。

- ①洗濯物を室内に干したまま外出する場合は、換気用小窓を開けること。
- ②帰宅したら最初に空気の入れ換えを行い、新鮮な空気を部屋に入れてから暖房すること。



## ■もし結露が発生したら

結露に十分気をつけて生活していても、結露が起こりがちです。

そんな時には、次のことを励行しましょう。

- ①結露が発生したら、定期的に拭き取りを行う。
- ②拭き取りが終わったら、1、2度空気を入れ換えただけでは結露は止まらないので、部屋全体の空気の流れをよくし、十分な換気を行い、部屋全体の乾燥を心がけること。



## 8 ダニなどの害虫駆除

初夏から秋にかけて、ダニ・ゴキブリが発生しやすいので、日頃から室内を清潔にし、こまめに掃除をしてください。

また、発生した場合、各戸単位で駆除してもあまり効果がありません。棟単位か、団地単位で駆除した方が効果的です。

なお、ダニ・ゴキブリなどの駆除は、入居者負担になりますので、予防に心がけましょう。

### ●ご注意

畳の上のカーペットなどの敷物は、ダニの発生原因になりやすいので、掃除をこまめに時間をかけて行い、ときどきカーペット等を干すようにしましょう。



# 9 電気

## ■安全ブレーカーは

電気を安全に使用できるように、各戸に安全ブレーカーが設置されています。

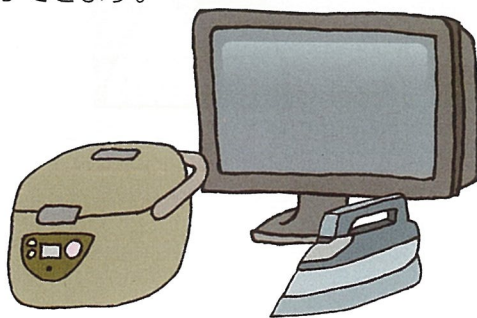
電気器具などに故障があったり、一定量以上電気を使用时、自動的に電気が切れます。

この場合は、故障器具の使用をやめるか使用器具を減らし、ブレーカースイッチを上げてください。

ブレーカーの容量は、変更できる場合があります。この場合事前に申請が必要ですので、公社等へご相談ください。

## ■テレビアンテナは

屋上の共視聴アンテナなどから、各室内またはベランダのテレビ用端子まで配線してありますので、特別な工事なしで受信することができます。



## ■有線放送、インターネット・衛星放送の個別設置

有線放送やインターネット用配線を個別に導入することは美観上、建物保安上等の理由により認めておりません。

なお、棟単位で導入は認められる場合もあります。

また、衛星放送用アンテナをベランダに個別に設置するためには、事前に申請が必要になりますので、公社等へご相談ください。

## ■電気器具の使用

電気器具は直接コンセントから使用してください。タコ足配線は火災のもとになり、危険ですからやめてください。

また、電気器具の使用電力のおおよその目安は次表のとおりです。参考にしてください。

器 具	容 量 (W)	電 流 (A)
炊 飯 器 (5合)	1000~1300	10~13
ト ー ス タ ー	300~600	3~6
電 気 ポ ッ ト	800~1200	8~12
パ ネ ル ヒ ー タ ー	1500~2000	15~20
ミ キ サ ー	130~300	5~7
ア イ ロ ン (1.8kg)	1000~1200	10~12
ド ラ イ ヤ ー	1000~1500	10~15
置 こ た つ	800~1000	8~10
電 子 レ ン ジ	1000~1500	10~15
レ ン ジ フ ー ド	130	1.6
洗 濯 機	200~400	2.5~5
洗濯乾燥機 (乾燥時)	850~1600	9~16
冷蔵庫 (95~365ℓ)	300~400	4~5
そ う じ 機	500~1000	6~11
扇 風 機 (30cm)	50	0.6
テレビ (14~42V型)	60~500	1~5
ス テ レ オ	100~200	1~2
エ ア コ ン	1000~1200	12.5~15
け い 光 灯 (20W)	25	0.4
け い 光 灯 (30W)	37	0.6
電 球 (60W)	60	0.6
電 球 (100W)	100	1

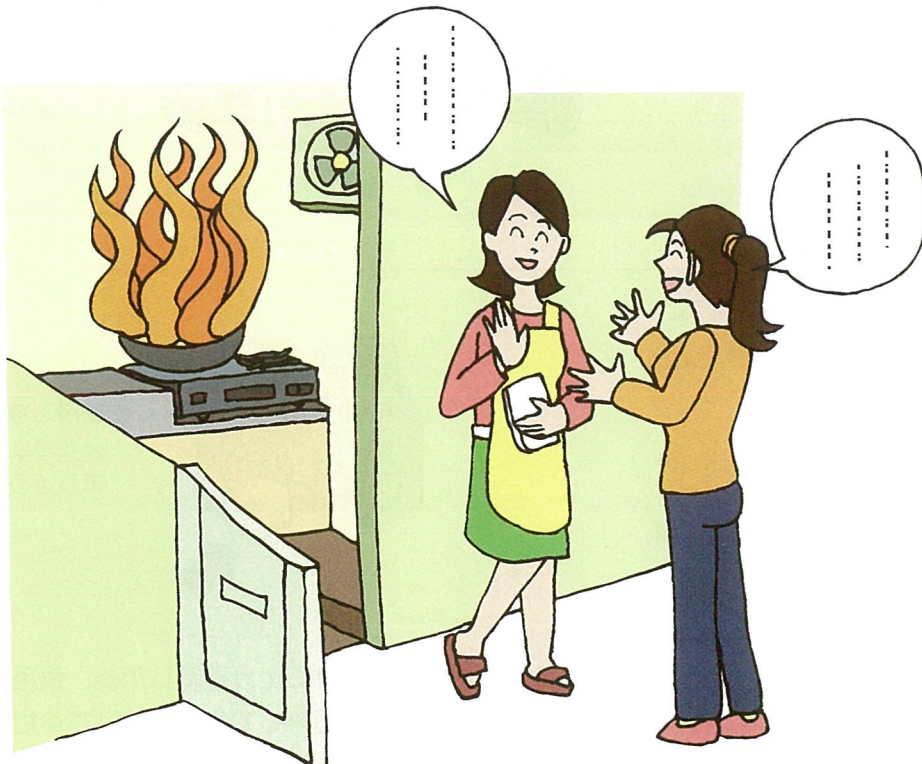
## 10 ガス

### ■ガスの使用

- 地域によって供給されるガスの種類が異なります。確認のうえ使用熱量にあった器具を使用してください。
- ガスが完全に燃焼するには、多量の空気が必要です。部屋の換気をよくして、バーナーの空気口の調整をすることが大切です。不完全燃焼のガスは臭気もなく有害な一酸化炭素が含まれています。十分注意しましょう。
- 揚げ物の途中、ガスを点火したままで、その場を離れることのないようにしてください。鍋の中の油の温度は意外に早く高温になり、引火しやすく火災の原因になります。
- 長期不在の時は必ず元栓を閉めましょう。

### ■ガス漏れ等の防止

- ガス器具・ゴム管は、ガス会社の検査済みの優良品が安心です。
- ゴム管は固く十分に差し込んで、両端を安全バンドでしっかり止めてください。
- 差し込み口のゆるくなったゴム管は、切りつめ、古いゴム管は新しいゴム管に取り替えてください。また、ビニール管は危険ですから使用しないようにしましょう。
- 小さい部屋では特に換気に十分気をつけましょう。
- コンロなどはときどき手入れをして、バーナーホールをよく掃除してください。
- 利用しないときは、器具栓、元栓の順に確実に閉めるようにしましょう。

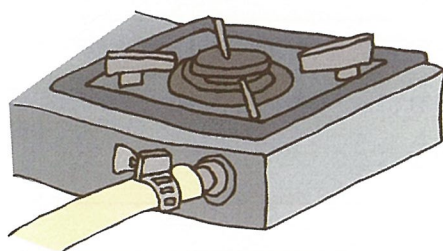


## ■ガス漏れに気づいたときは

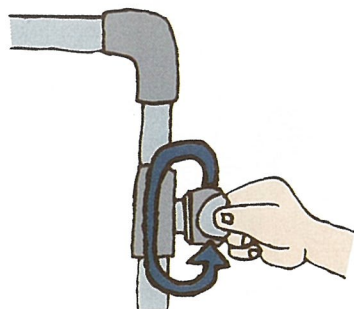
ガスが臭い、ガスが漏れているのではないかと気づいた時は…

- ① まずガスの元栓を閉めましょう。
- ② 次に窓やドアを全開にして、ガスを早く室外へ追い出すようにしましょう。
- ③ 火気はもちろん禁物ですが、電気のスイッチ（換気扇や照明器具など）もさわらないでください。
- ④ 十分に換気ができたことを確認しましょう。
- ⑤ ガス会社に連絡をして点検をしてもらいましょう。  
ガス爆発は大変な惨事になることを、いつも考えて行動してください。

## ●ガス器具の正しい使い方



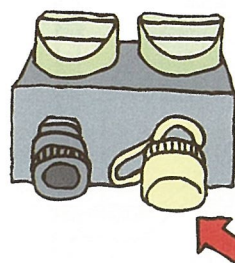
- ◀ 器具は、ときどき掃除し、空気口を調節しましょう。
- ◀ ゴム管は、十分差し込み安全バンドで固く止めましょう。



- ▲ 夜間寝る前や外出・外泊のときには、ガスの元栓を必ず閉める習慣をつけましょう。



- ◀ 長いゴム管及び古いゴム管の使用は危険ですからやめましょう。
- ◀ 器具やゴム管は、検査合格証のある優良品を使いましょう。ビニール管の使用は危険です。



- ◀ 使用しないコックには、必ずゴムキャップをつけましょう。

- 万一ガスもれがあったときは、元栓を止め、ドアや窓を開けて十分換気した後、使用してください。
- ガスについて異常や事故があったときは、すぐガス会社に通報して修理を受けてください。

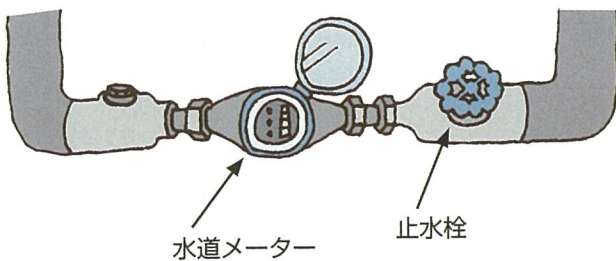
# 11 水道

## ■止水栓

玄関外側のメーターボックス内に、水道メーター及び止水栓があります。

この止水栓を開いて水をご使用ください。  
(止水栓は左に回すと開き、右に回すと閉まります。)

漏水した時や、長期不在の場合はこの止水栓を閉めておきましょう。



## ■断水したときは

断水した時は、必ずすべての水栓を閉めてください。断水した時にホースの先が水の張っている浴槽などに入っていると、浴槽などの水が逆流して給水管を汚染する危険がありますので、ホースは必ずはずすようにしましょう。

また、断水中に水栓を開いたままにしておくと、通水が行われたとき水があふれ、階下へ漏水する場合があります。

この時に発生した損害については、原因者が賠償しなければならないこととなりますのでご注意ください。

断水のあと、水栓を開けると異常音が発生することがあります。これは給水管内に空気が入ったために発生するもので、すべての水栓を開けて空気を抜いてください。

それでも直らない時は公社等にご連絡してください。

赤水等が発生した時には、正常に戻るまでしばらく放水してください。

## ■漏水したときは

水道管などが破損して漏水したときは、メーターボックス内の止水栓を閉めてから公社等にご連絡ください。





## ■水を漏らしたときは

階下に水を漏らさないように注意してください。コンクリートの建物でも水は漏ります。

建物のうち防水を施している部分は浴室だけです。洗濯機の水のあふれ、断水時の水栓の閉め忘れなどは特に気をつけてください。

また、洗面所やキッチンで水をこぼした時は、手早くふきとり、階下の住宅に連絡するなどして、迷惑のかからないようにしましょう。

## ■家財保険への加入

万一、水漏れによって階下に水損を発生させた時、家財保険に加入しておくで費用の面で安心です。

## ■水栓の水漏れと異常音

水栓を強く閉めても、ポタポタ水が漏れたり、開けた時に異常音がするのは、水栓のパッキンが摩耗しているためです。

このような場合、放置すると水栓や管などを痛めますし、水を無駄にしています。

早めにパッキンを取り替えましょう。

